

# 性同一性障害の子供 606人

## 学校で配慮なし 4割

体と心の性が一致しない性同一性障害とみられる児童生徒が、全国の小中高校で少なくとも606人いることが13日、文部科学省の初めての調査で分かった。このうち6割に対しては制服などについて何らかの配慮がされていたが、4割近くは配慮がなく、学校現場で対応が分かれている実態が浮き彫りになった。文科省は今後、専門家の意見を踏まえ、対応策づくりに乗り出す。

### 小中高に報告 文科省初調査



国公立の小中高校などに昨年4～12月に在籍した児童生徒1369万人を対象に、学校側が既に把握している事例を調査。その結果、児童生徒が保護者が性同一性障害と認識し、学校側に伝えているケースは606人。このうち戸籍上の男子は237人、女子が366人で、無回答が3人いた。高校が403人と過半数を占め、中学110人、小学高学年40人、同中学年27人、同低学年26人だった。学校側が特別な配慮をしている児童生徒は377人と全体の62.0%。具体的な

性同一性障害 生物学的な性別と心理的な性別が一致しない状態。2004年施行の性同一性障害特例法では、2人以上の医師の診断が一致している人と定めているが、今回の文科省の調査では児童生徒本人が性別違和感を持ち、本人が保護者が性同一性障害という認識を持っている場合とし、医師の診断がない場合も含む。

配慮(複数回答)としては、服装面が161人と最も多く、生徒が認識している性別での制服着用を認めた学校や、制服のない小学校で戸籍上男子の児童がスカートで登校しているケースもあった。ほかに、職員トイレを使用させたり、戸籍名とは違う通称で呼んだり、各校が様々な工夫をしている。一方、228人(37.6%)に関しては特に配慮はされていないかった。無回答は1人(0.2%)。現状については「周囲も受け入れている」という回答があった一方、「不登校状態となっており、保健室に通うことが多い」という例もあった。

実際の人数の一部」としており、性同一性障害の当事者らでつくる団体「gid・j日本性同一性障害と共に生きる人々の会」の山本蘭代表(56)は「子どもたちが学校に相談しやすい環境をつくるのが重要だ」と指摘する。

中塚幹也・岡山大教授(生殖医学)の話「全国調査をしたことで学校現場の意識が変わるのではないかと。学校全体での組織的な対応が進んでいる海外の取り組みを参考に、個々の子どもにあった支援ができるように、教員に基礎知識を学んでもらうことが大事だ」

文科省は「調査結果は実